

音楽科学習指導案（3年3組）

令和3年10月8日（金曜日）10:20～11:10 体育館

1 題材 歌詞の内容と曲想を生かして表現を工夫し合わせて歌おう。

2 題材の目標

- (1) 「僕が守る」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で「僕が守る」を歌うために必要な、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
- (2) 「僕が守る」の旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「僕が守る」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 混声四部合唱の豊かな響きや表現方法に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。

3 題材設定の理由

(1) 教材観

①題材の価値

本題材は、校内合唱コンクールに向けたクラス合唱曲を、合唱ならではの長いフレーズ、混声四部合唱の音の重なりなどによる演奏効果について吟味し表現を追求していくことを通して、よりよい演奏にするために創意工夫する力、創意工夫を生かした表現をするための技能、主体的・協働的に練習や試行をする力を高めていくものである。

本題材で扱う合唱曲「僕が守る（作詞：銀色夏生 作曲：上田真樹）」はNHK全国学校音楽コンクール高等学校の部の課題曲として書かれた混声四部合唱曲である。この曲が課題曲となった第78回コンクールのテーマは「仲間」であり、これから社会に出て歩んでいく高校生に向けた、仲間とは何かを考えさせられるメッセージとなっている。各パートにディビジョンがあり、最大で7声に分かれる難曲だが、冒頭のア・カペラ部分と終末（練習記号[F]）、曲中で2度表れる感動的なGrandiosoの部分（練習記号[C]と[E]）、場面をつなぐ3拍子の部分（練習記号[B]と[D]）など、要素に共通点が見られる部分も多く、生徒にとっては構成を理解しやすく、その共通点や相違点から創意工夫のしやすい作品と言える。

場面の変化とそれを生み出す要素の変化、歌詞の内容やコンクールのテーマ「仲間」について考えることで、曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについての理解を深めることができる。また、それぞれの場面の曲想を生み出している音楽の構造について、曲想にふさわしい旋律のフレーズや音価、音の重なり、強弱などの視点から吟味して練習することで、よりよい歌唱表現にするために創意工夫する力と、創意工夫を生かした表現をするための技能を高めることができる。さらに、ペアやグループでの活動場面を作り、考えを交流したり演奏の結果について共感したりしながら練習することを通して、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む態度を養うことができる。

②題材の系統性

- ・第1学年では、混声三部合唱曲を二人組や各パート4人程度の小グループで創意工夫する活動を通して、思いや意図を交流しながら主体的・協働的に学習に取り組む態度や、構成と強弱、構成とパートの役割、歌詞と強弱などの関わりについて考え創意工夫する力を身に付けてきた。
- ・第2学年では、各クラスの合唱曲に取り組み、指揮者やパートリーダーを中心とした合わせ練習を通して、歌詞に込められた感情やイメージと声の音色や強弱との関わりに着目して創意工夫し、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な身体の使い方や各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けてきた。
- ・第3学年では、速度変化のある混声三部合唱に取り組み、クラス全体を二つに分けたチーム練習を通して、それぞれのチームの演奏から速度変化による雰囲気の違いを吟味する学習をしてきた。
- ・今後の学習において、卒業式の式歌の意味や作曲された背景を、歌のもつ力や声を合わせることの意味と関わらせて考え、歌唱表現を創意工夫する学習につなげていく。

(2) 生徒観（男子 17 名、女子 17 名 計 34 名）

- ・知識については、強弱や言葉の発音、音色、パートの役割などと、歌詞との関連について理解している生徒が 81%であったのに対して、曲の背景との関連について理解している生徒は 62%とやや少なかった。生徒の記述からは、曲の背景が直接音楽表現に影響を与えていることについてイメージしにくいことが書かれている。これは、既習曲の背景には生徒の生活や社会とかけ離れたものが多く、実感を伴った理解につながりにくかったものと考えられる。
- ・技能については、「花（作詞：武島羽衣 作曲：滝廉太郎）」の二重唱の発表において、91%の生徒が他者と合わせて正しい音程で二重唱や合唱することができた。また、歌詞の内容と強弱との関わり、言葉のまとまりとリズムとの関わりを考え、創意工夫を生かした表現で歌うことができた生徒は 74%である。創意工夫しながら技能を高める練習に慣れている生徒が多く、授業内で創意工夫した内容を想起しながら歌う技能の高い集団である。
- ・思考・判断・表現については、練習の中で表現の結果を吟味し、より楽曲にふさわしい新たな思いや意図につなげ、言葉や図形譜などで表現できる生徒が 64%である。しかし、創意工夫する視点として、旋律のフレーズや音価、パートごとのバランス（音の重なり）に着目している生徒はそれぞれ 35%、47%と少ない。これは、合唱だからこそ表現できる長いフレーズや音価の旋律に対して、客観的に聴いて吟味する機会が少なかったことが原因として考えられる。また、混声四部合唱曲に取り組むのは今回が初めてであり、和音の響きや心地よさなどの聴き手に与える印象を、各パートのバランスによって吟味する経験ができていないことも理由の一つだと考えられる。
- ・主体的に学習に取り組む態度については、練習メニューや練習時間について自分たちで見通しをもって決定し、パートリーダーやチームリーダーの指示に従いながら課題に沿って練習を進めることができる生徒がほとんどである。また、パートリーダーやチームリーダーの生徒は、メンバーの習得状況を見ながら歌う箇所を限定したりゆっくり練習したりして、練習方法を調整することができる。合唱曲を創意工夫して歌うことに対する関心や意欲が高い集団であることが、生徒の主体的・協働的に取り組む姿として表れていると考える。

(3) 指導観

- ・NHK全国学校音楽コンクールと関連させ、これから社会に出ていく高校生に向けた歌詞であるという背景や、生徒自身の経験と関わらせて考えることで、楽曲に対する関心と練習への意欲を高めるとともに、曲の背景と曲想との関わりを理解できるようにする。
- ・練習記号ごとに、曲想、音楽の構造、歌詞の内容、曲の背景についてXチャートを用いてそれぞれの関わりを考えながら鑑賞することで、生徒一人一人が自身の経験と関わらせながら背景と音楽との関わりを理解し、根拠を明確にしながら思いや意図をもつことができるようにする。
- ・練習に取り組む際には練習メニューを活用し、その時間でどのように練習に取り組むかを全員が共通理解しながら取り組めるようにするとともに、今後の題材にも生かせるようにする。
- ・追求する段階では、アンケートを基に工夫するための視点を決め、一人一人に視点に応じた役割と工夫するためのヒントをもたせることで、生徒一人一人が思いや意図をもちながら練習に取り組むことができるようにする。
- ・創意工夫する際には、ペアで意見交流しながら試行する段階と、チーム内や全体で意見交流しながら試行する段階をつくることで、自分の意見をもちながら他者の意見を吟味し、練習しながら新たな思いや意図につなげることができるようにする。
- ・チーム練習に挑戦し、他チームへの発表を目標に少人数で意見交流しながら練習することで、仲間意識を生み、自分たちの創意工夫や演奏のよさについて共感できるようにする。
- ・全員で歌いながら創意工夫するだけでなく、歌いながら考えたり吟味したりすることが難しい場合には、チームや役割の中で聴く人を決めたり、録音して確認したりすることで、演奏を聴く人の視点から工夫できるようにする。
- ・まとめる段階では、全員で合わせながら自分の歌を録音することで、自身の技能の成長を実感できるようにするとともに、客観的視点から自身の演奏を改善できるようにする。

4 指導と評価の計画 音楽 3年 題材「歌詞の内容と曲想を生かして表現を工夫し合わせて歌おう」(全8時間計画)

目標	(1) 「僕が守る」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で「僕が守る」を歌うために必要な、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 (2) 「僕が守る」の旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「僕が守る」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 (3) 混声四部合唱の豊かな響きや表現方法に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。						
	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	知	「僕が守る」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。	思	「僕が守る」の旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。	態	混声四部合唱の豊かな響きや表現方法に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
	技	創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。					
過程	時間	◎目標・課題		○学習活動	重点	記録	備考
つかむ	1	◎「僕が守る」について知り、曲想と音楽の構造や歌詞の内容、背景との関わりについて考えながら聴き、理解を深める。		○「僕が守る」を聴き、曲想と音楽の構造や歌詞の内容、背景についてXチャートを用いて考える。 ○グループで共有し、全体に向けて発表する。 ○題材の課題を立てる。	態 知	○	態：観察・記述 知：記述分析
		「僕が守る」の曲想、音楽の構造、歌詞、背景について考え、理解を深めよう。					
題材の課題：歌詞の内容と曲想を生かして表現を工夫しよう。							
追求	3	◎「僕が守る」の歌詞の内容や曲想を表現するために必要な技能を身に付ける。		○曲全体を三つの場面に分けて練習する。 ○つかむ段階で考えた内容を基に課題を立て、パートごとに音取り練習をする。	態 技		態：観察・記述 技：演奏・観察
		「(練習記号)」を、「(音楽を形づくっている要素)」の変化を意識して練習しよう。					
求める	3 (本時はその2)	◎「僕が守る」の旋律、テクスチュア、強弱を知覚・感受し、少人数で意見交流しながら練習に取り組むことで、思いや意図を基に「僕が守る」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。		○二つのグループに分かれ、チーム練習に取り組む。 ○それぞれのチームの演奏を発表し、そのよさについて考える。 ○チーム練習で工夫したことを、全員で試す。	創 技	○	創：観察・記述 技：演奏・観察
		「(練習記号)」の表現を、「(音楽を形づくっている要素)」に着目して工夫しよう。					
まとめ	1	◎創意工夫を生かした表現で「僕が守る」を歌い、自分の声の録音や全体の録音を聴いて発見した課題を基に主体的・協働的に練習することを通して、技能の課題を解決し、題材での学びを深められるようにする。		○全体で合わせて歌いながら自分の歌を録音する。 ○自分の声の録音を聴き、課題を見つける。 ○個々の課題や全体の課題を練習し解決する。 ○クラスでの通し演奏を録音し、題材のまとめと振り返りをする。	技 態	○	技：演奏・記述 態：観察・記述
「僕が守る」の録音を聴いて、個人やパートの課題を解決しよう。							

5 本時の展開 (6/8)

(1) 目標

練習記号Cの旋律のフレーズや音価、音の重なり、強弱を知覚・感受し、少人数で意見交流しながら練習に取り組むことで、「僕が守る」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 前時の活動を振り返り、本時の課題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初とAの部分工夫したな。 ・無伴奏部分の4パートのバランスを吟味したな。 ・スラーの位置を見ると、フレーズの長さが大切そうだな。 ・Grandiosoの感じを表現するにはどうすればよいのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○常時活動を行い、学習の雰囲気を作る。 ○アンケートから、生徒が難しいと感じている部分の音取りをすることで、本時で創意工夫する練習に抵抗なく取り組めるようにする。 ○第一時で考えた、練習記号Cの曲想、音楽の構造、歌詞の内容、曲の背景、それぞれの関わりについて振り返り、本時の課題につなげる。
<p>課題：CのGrandiosoの表現を、旋律のフレーズや音価、音の重なり、強弱に着目して表現しよう。</p>	
<p>2 二つのチームに分かれて練習し、歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工夫する際の自分の視点を決め、役割のカードを提出する。 ○チームに分かれて練習する。 ・「壮大に」という意味なので、弱い部分が無いようにしたい。音の長さを保って、途切れないように歌いたいな。 ・スラーがとても長くつけられているので、ブレスの位置をずらしてフレーズが途切れず聴こえるようにしたい。 ・ソプラノの主旋律はよく聴こえるけれど、アルトとテノールが埋もれてしまいがちなので、バランスを取って歌いたいな。 ・「こまる」のpの部分は、ただ弱くするのではなく、「そこにいて欲しい」という願いが伝わるようなpで歌いたいな。 <p>3 それぞれのチームの工夫を共有し、全体で試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各チームにおいて工夫したことを発表し、演奏する。 ○それぞれの工夫点を全体で試す。 <p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○旋律のフレーズや音価、音の重なり（バランス）、強弱について役割分担することで、各自が視点をもって考え工夫できるようにする。 ○チーム練習の目的と、楽譜上の記号の意味について全体で確認し、生徒が創意工夫する活動に主体的に取り組めるようにする。 ○練習記号ごとの伴奏音源を用意しておくことで、各チームが伴奏との関わりも含めて創意工夫できるようにする。 ○各チームを巡視しながら、技能面の指導や新たな視点の助言をすることで、自分の役割以外の視点からも考え創意工夫できるようにする。 ○歌いながら考えたり吟味したりすることが難しい場合には、チームや役割の中で聴く人を決めたり、録音して確認したりすることで、演奏を聴く人の視点から工夫できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>「僕が守る」の旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。（観察、記述）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○発表した工夫点を教師がメモし、モニターに提示することで、全体で参照しながら練習できるようにする。 ○工夫した演奏のよさについて、他チームの生徒や教師が価値付けすることで、クラス全体でよさを共有しながら試せるようにする。 ○もっとよくしたいことや新しい気づきを振り返らせることで、次時へ練習に生かせるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレーズが途切れないようにブレスや音の長さを工夫し、弱い部分ができないように練習することで、歌詞や曲想に合った壮大な感じを表現することができた。さらに、速度をもう少し遅くしたり、テノールの歌い方を工夫したりして歌ってみたい。 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><「学びの質」を高めるための具体的な手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現のふさわしさを吟味する「ミュージック・ワークショップ」の展開 ・チーム練習を目指した段階的な練習パターン習得のための「練習メニュー」の活用 </div>	